

1 学校教育目標

【校 訓】 礼節を重んず 勤労を尚ぶ 誠実に生く

【教育目標】 自ら学び考え、未来を創造する魅力ある人材の育成

【教育スローガン】 GO! 前へ! ~ 夢実現へチャレンジ ~

【重点目標】

- (1) 教職員相互の共通理解による教育活動の活性化を推進
- (2) 生徒にとって、安全で安心できる環境の学校づくり
- (3) 八農（分校）教育全域を通してのキャリア教育・人権教育の推進と進路実現
- (4) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進
- (5) 地域の資源や人材を最大限に活用した教育活動と教職員研修の推進
- (6) リスク管理と危機管理の徹底と諸課題の解決の推移
- (7) 継続的・効果的な情報発信と生徒募集の取組の推進
- (8) グローバル人材の育成

【教育方針】

- (1) 地域の誇れる生徒の育成
 - ア 端正な制服と礼儀正しい生徒（礼節）
 - イ 目的達成に向けて努力する生徒（勤労）
 - ウ 自律心を持ち誠実に行動する生徒（誠実）
 - エ 命を大切にし、自他を認め、思いやりのある生徒
 - オ 部活動・生徒会・学校農業クラブ・学校家庭クラブ活動に積極的に取り組む生徒
 - カ ボランティアや地域行事等へ積極的に参加し地域貢献ができる生徒
- (2) 地域に誇れる教職員への支援
 - ア スクール・ミッション具現化のための協働の教育現場づくりの推進
 - イ 「八農（分校）教育」の特色を生かした「感動教育」
 - ウ 夢や希望を実現できる学習指導、進路指導及び生徒指導の構築と取組の推進
 - エ ICTを活用した個別最適な学習体制の構築と取組の推進
 - オ 特別な支援を要する生徒の全教職員の共通理解と情報共有に努め、保護者等や中学校、関係機関との連携を推進
 - カ 職員研修の充実を図り、教職員としての資質（専門性、指導力、人権）向上を推進
- (3) 地域に誇れる学校づくり
 - ア 地域社会、地域産業、地域の教育に必要とされる魅力ある教育の推進
 - イ 「八農（分校）教育」の積極的な情報発信
 - ウ 多様な世代や地域等との教育交流の継続と深化
 - エ 積極的なボランティアや地元行事への参加による地域社会への貢献
 - オ 安全・安心な差別やいじめのない学校づくり
 - カ 清掃・整備の行き届いた教育環境づくり
 - キ グローバル教育への取組

2 本年度の重点目標

- (1) 教職員相互の共通理解による教育活動の活性化を推進
- (2) 生徒にとって、安全で安心できる環境の学校づくり
- (3) 八農（分校）教育全域を通してのキャリア教育・人権教育の推進と進路実現
- (4) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進
- (5) 地域の資源や人材を最大限に活用した教育活動と教職員研修の推進
- (6) リスク管理と危機管理の徹底と諸課題の解決の推移
- (7) 継続的・効果的な情報発信と生徒募集の取組の推進
- (8) グローバル人材の育成

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	・教育目標及び重点目標の共通理解と生徒・保護者及び地域への周知	・教職員の理解度100%生徒・保護者の理解度90%以上	・校内掲示、職員会議、保護者会広報誌等での周知を行う。HP、学校運営協議会等の活用の継続。	B	・学校評価アンケートでは、教職員の理解度100%（昨年度100%）、生徒の理解度87.9%（同92.1%）、保護者の理解度83.9%（同95%）であった。十分に理解され、周知されているが更に努めていく。
	生徒募集	・募集定員の確保に向けての取り組み ・取組みの見直し、創意工夫 ・組織的・効率的な取組み	・次年度入学者20人以上を目指し取組む ・体験入学の内容の工夫 ・具体的な魅力発信方法の工夫 ・「チーム」による取組	・体験入学参加者確保 ・地域との交流連携事業 ・中学生の保護者・教員への魅力発信 ・HPの充実 ・情報発信の創意工夫 ・担当者による中学校定期訪問	A	・7月と10月の2回、体験入学を実施した。第1回の参加者は、中学生35名・保護者29名。第2回は中学生7名・保護者8名。 ・中学校と顔の見える関係性づくりのため、全職員で42校の定期訪問を実施した。魅力を伝える機会とすることができた。
	学校への適応指導の強化継続	・生徒が自身の目標をもって学校生活を送り本校において自己実現を目指す	・授業や学校に適応できる環境づくり ・校内における情報の共通理解 ・中途退学及び転学者を減らす対策の実施 ・個別支援の強化	・生徒情報の系統化 ・気付きと情報の共有 ・適応できる環境作り、個別対応の強化と継続 ・中学校やSC、SSWとの連携 ・保健環境部との連携	A	・生徒面談や家庭訪問、保護者との連携が丁寧に行われるとともに、教職員間での生徒情報の共有も日常的に行い、支援や指導に生かすことができた。 ・心配される生徒は、三者面談やSC面談を継続的に実施した。また、SSW、関係福祉機関と連携しケース会議も実施するなど課題解決に取り組んだ。
	魅力発信	・本校の魅力や特色を発信できたか	・体験入学参加者確保 ・次年度入学者20人以上 ・アンケートの指数が平均90%以上 ・学校HPからの情報発信	・新学校パンフレット作成 ・中学校等訪問（行事や体験入学案内を含め定期的な訪問） ・地域や地元小中学校との交流のとの連携 ・学校運営協議会の活用 ・HPの毎日更新を目標	A	・学校パンフレットだけでなく、中学校各クラスでの掲示資料を作成して定期訪問を行い、特色ある行事の紹介やHPへのアクセス、進路学習の資料としての活用依頼を行った。 ・泉小中学校、泉第八小学校と交流学习を行うことができた。専門的な学習内容を披露、体験してもらい、好評を得た。 ・HPの毎日情報更新の成果として1カ月のアクセス数が約55,000回（11月）の月もあった（1日平均1,500以上）
	業務改善	・学校行事の精選及び整理、見直し ・業務内容の見直しの推進	・学校行事の精選及び整理、見直し ・ICT活用 ・各教職員の	・学校行事の精選等 ・資料配布の削減 ・ICTの活	B	・今年度の最大行事であった70周年記念式典を盛大に挙行することができた。 ・行事の精選は検討を重ねていきたい。

		・業務の負担感軽減と効率化への工夫	意識改革	用 ・データの共有化の推進と整理		・ICTの活用により、資料のペーパーレス化も進んでいる。
	働き方改革	・業務改善と教職員の意識改革により、さらに本校教育の質の向上を図る	・業務改善に向けた意識改革と目標設定 ・時間外勤務時間の昨年度比減少を目指す ・出張等の削減 ・業務の分担の調節	・現状と課題確認 ・定期考査時の定時退庁 ・校外での会議や研修参加の精選 ・代休、特休の100%消化、取得 ・年間15日の年休取得	B	・12月までの累計時間外勤務の全職員平均が昨年度24.23時間であったが、今年度は28.35時間となった。支援を要する生徒、保護者への対応や周年行事の準備、ICTを活用した教材や授業準備など、時間を要する場面が昨年度より増加した。 ・次年度は定時退勤日の設定を行い、心身がリフレッシュする時間を設けていく。 ・12月までの全職員の年休取得平均は、14.9日。
学力向上	学習習慣と基礎学力の定着	・高校生のための学びの基礎診断の活用	・学習状況の改善 ・確かな学力の育成 ・個に応じた指導の充実	・生徒、教職員によるICTの効果的な活用	B	・ICTの活用はますます促進されてきている。授業の内外はもとより、学校の内外も問わなくなってきており、家庭における生徒の学習の促進にも絶大な効果を発揮している。
	新学習評価規程の制度の向上	・生徒や学校教育のあらゆる状況に対応	・生徒の学習改善につながるものにする ・教師の指導改善につながるものにする	・職員会議や職員研修の実施	A	・新学習評価規定のスムーズな運用ができた。システム上の大きな問題もなかった。来年度も研修を実施し、引き続きよりよい評価体制を整えていきたい。
	教育的ニーズへの対応	・教育的ニーズへの新たな対応 ・ICTを活用した対応	・スクールミッションの活用 ・学校設定科目の見直しと継続 ・ICTの活用と工夫	・外部評価との整合性を確認 ・学校設定科目とその学習内容についての見直しを行う ・ICTの具体的活用を全職員で取組む	B	・生徒、保護者、教職員、地域を対象とした学校評価アンケートを実施後、年間反省、評価を実施した。各評価を今後を活用する。 ・個に応じた教育や評価の在り方について教務部を中心に全教職員で検討している。
キャリア教育(進路指導)	進路活動支援	・より具体的な進路目標の確立を目指す	・進路個別面談の実施 ・進路情報の継続的な提供による具体的な進路先の設定支援による内定100%	・進路WEB資料提供、面談等による指導 ・キャリアサポーターによる進路支援 ・進路室の開放及び情報の提供 ・進学ガイダンスの活用	B	・学年の面談等に参加し、より詳細な進路情報を提供していきたい。また生徒に対しては、ICT機器などを利用した啓発も行っていく。
	系統的キャリア教育	・社会的・職業的自立に必要な能力の育成	・各学年に応じた進路ガイダンス、企業	・企業等外部機関との連携	B	・インターンシップに向けて早めの希望調査、企業との打ち合わせ

	育の推進		見学、企業交流、インターンシップ、緑の時間、社会人セミナー等を実施	(オンラインを含む) ・インターンシップ、セミナー等の実施 ・職安、雇用整備協会等の事業を積極的に活用		せを行い、マッチングを確かにして充実したものにしていく。 ・緑の時間等を利用して、職業意識を高めるための自己理解等を進めていきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・校則の遵守 ・道徳及び情報モラルの向上 ・基本的な生活習慣の定着	・挨拶、時間、整容、言葉遣いを整える ・社会規範の習得、道徳心の向上	・授業や行事、全校集会をととした全体指導 ・日常の学校生活の中で個別指導を行う	B	・校則に関しては、制服の移行期間に関する要望があり、アンケート調査を実施し意見を集約している。年度内に来年度に向けた校則について話し合う場面を設けたい。 ・年度途中から整容確認で違反者が増えた。先生方の協力のもと声掛けを行い、時間をかけて理解を進めている。相手が嫌がるような言葉遣いが目立っており指導を行っている。
	交通安全教育の徹底	・交通安全指導の充実 ・自転車及び原動機付自転車の点検実施 ・原動機付自転車通学生の安全運転意識の向上 ・ヘルメット着用の啓発と周知	・交通事故0件 ・計画的な全体指導 ・個別指導を適宜実施 ・毎月の自転車及び原動機付自転車の整備点検の実施 ・原動機付自転車安全講習会の実施	・授業や行事、全校集会をととした全体指導 ・日常の学校生活の中で個別指導を行う	B	・自転車は概ね交通法規を遵守しているが、自転車の転倒や車との接触事故があり、さらなる乗車マナーの指導を行った。 ・交通安全集会では、泉分校交通安全の日の啓発及び意識向上への取り組みを行った。各ホームルームに交通安全ポスターの掲示等を通して、日常的な指導を重視した。
	自治活動の充実	・学校農業クラブや生徒会等において、生徒が自律的・主体的な計画を行い、運営する	・年度末の生徒アンケートで「学校行事が充実していた」の回答70%以上	・目的を明確にした学校行事を計画する ・自分たちの手で、より良い学校を築いていく自律的精神を育成する ・活動の振り返りを行い、成果を自信にして次の活動への活力を持たせる	B	・主体的に学校行事を運営しようという意気込みを強く感じた。 ・生徒会役員が学校行事で主導的な役割を果たしていた。ただ行うのではなく、行事の前に目標やねらいの共通理解を図った。 ・体育祭をコロナ禍以前のものにすることができ、満足している。
人権教育の推進	人権意識の涵養	・さまざまな人権課題に関心をもち、あらゆる差別や偏見を許さない態度の育成	・人権に配慮した言語環境を整える ・人権教育LHRと人権教育講演会の充実 ・職員研修の充実	・人権に配慮した発言の意識高揚と職員研修における検証 ・人権教育推進委員会で人権教育の指導方法の共通認	B	・各学期に人権教育LHRを実施し、生徒の人権意識の高揚を図った。 ・2学期は「部落差別」について、職員研修と生徒の人権LHRを合同で学習会を実施した。 ・来年度も各学期で学年

				識を図る		毎に実施するように計画したい。
	推進体制の確立と研修の充実	・教職員の実践的指導力の向上 ・教職員の人権意識の醸成	・職員、生徒の学校評価アンケートにおいて、人権教育の取り組みが「できている」の回答90%以上	・教職員全員が1回以上は校外研修へ参加する ・毎年1回の人権レポートを提出する	A	・ほぼ全員の研修参加で、意欲的・積極的に参加していただける体制は整っている。 ・人権レポート研修では、多忙な中、全ての教職員に提出頂き、充実した研修ができた。
	計画的な人権教育の充実	・熊本県人権教育・啓発基本計画を踏まえた、泉分校の人権教育の計画や人権関係文書等を全教職員へ周知する。	・人権教育の指導方法等の在り方について「人権教育取り組みの方向」（県教委）の実践に取り組む	・人権教育推進委員会における年間指導計画の精選 ・昨年度計画の指導内容改善を図り、より充実した人権教育を実践する	B	・1学期 1年 インターネットと人権 2年 ハラスメントと人権 3年 言わない・書かない・提出しない ・2学期 同和問題・ハンセン病・水俣病をローテーションで実施し、3年間で全てを学習するよう計画する。 。今年度は部落差別を実施。 ・3学期 1年 部落差別（同和問題） 2年 北朝鮮拉致問題 3年 LGBT（性的マイノリティー） 年間をとおして実施内容を精選しPDCAサイクルを確立させたい。
	命を大切にす る心を育む指導	・自他の生命の尊さや生きることの素晴らしさ等、生徒一人ひとりの自覚を全教職員が一丸となって深める	・各教科・科目において人権教育の視野に立った指導を意識し、命を大切にす る心を育む取り組みを行う ・言語活動の強化	・協力をとおしてお互いを尊重し合える態度を育成する指導の実現を目指して、各教科、各科目の連携を充実させる ・情報共有	B	・呼称調査を年度当初に実施し職員で共有し、各教科での授業において、互いを尊重しあえる態度を育成の指導に活かすことができた。 ・命に関わる心に不安のある生徒の対応がある場合は、人権教育主任として心を育む指導ができるようにしたいが、情報の共有ができないことがあったので、学年や先生方と連携して情報共有をしていきたい。
いじめの防止等	いじめ問題への取り組みの強化	・いじめ根絶の取り組みを充実させる ・人間関係の構築ができるようにする ・相談しやすい環境の設定	・教職員のいじめに対する認識を高める研修を計画的に実施 ・いじめが背景に疑われる重大事態認知に努め安全・安心な学校づくり	・いじめに関する職員研修を実施 ・全校生徒に対して年3回の心のアンケートの実施 ・心のアンケート実施後に全員と個人面	B	・職員研修、心のアンケート、全生徒との個人面談、標語、集会の実施はできた。 ・いじめ認知件数は7件である。 ・未決課題は残るが様々な人間関係のトラブルに対して学年・生徒部を中心に、心に寄り添う指導に努めている

			<p>くりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめの問題を自分の問題及び自分たちの問題として考えることができる ・ 校内外の関係機関と連携して様々な道徳教育や人権尊重の啓発に取り組む。 ・ 悩みを抱えたときに相談できる関係性を作る ・ 他者理解の重要性や多様なコミュニケーションを学ぶ。 	<p>談を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心のきずなを深める標語を作成を実施 ・ クラスごとに心のきずなを深める行動計画を策定 ・ 教職員間で生徒情報を日常的に共有 ・ 学期始めに教育相談期間を設定 ・ 巡回指導の実施 ・ 全校集会を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が教職員に相談をしやすい環境を作り、状況に応じて定期的な面談を実施した。 ・ クラスごとに互いの気持ちを尊重しようとする啓発を実施している。 ・ 文化コミュニケーション事業を行い、他者とのコミュニケーションについて、体験的・実践的に学ぶことが出来た。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	泉分校ができる防災型コミュニティ・スクールの整備	・ 災害時に臨時避難所を設営する際の教職員の役割確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練を行う中で教職員の役割確認 ・ 地域の避難訓練等に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の方との緊密な協力体制の確立 ・ 緊急時用の防災用品の点検・確認 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂災害避難確保計画作成にあたり、泉支所との協力体制の確認を実施した。 ・ 緊急時用品等は、年間2回の賞味期限確認や点検を実施した。
	泉町の地域住民と交流を図り地域理解に努める	・ 泉町の行事等に生徒及び教職員を派遣する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会や学校農業クラブ等生徒が主体性を持って行事に参加する環境の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お茶まつり、町民文化祭および泉まちづくり協議会主催のイベント、ボランティア活動への参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第に多くの行事、イベントが通常に戻り、生徒への参加呼びかけをする場面が増えた。主体的かつ積極的に活動する生徒も増え、地域交流が促進した。
専門教育	専門教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の授業への満足度 ・ 研究活動の成果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業満足80%以上 ・ 成果報告会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録簿をとおして達成度の確認 ・ 泉町文化祭にて研究内容の報告 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録簿をとおして達成度の確認が行えた。 ・ アンケートをとおして授業満足度は86%であった。 ・ 泉町文化祭へは70周年記念行事と重複し、参加・報告できなかった。
	学校農業クラブ活動の充実	・ 各種大会への積極的取組および成績	・ 各種県大会上位入賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保はできていたが意見発表と鑑定競技での入賞はなかった。
	地域との交流活動の充実	・ 地域との交流活動の状況	3年次、生徒アンケート調査において「できている」の回答80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門教育で生徒が地域や外部と連携した活動において、計画から実施まで主体的な活動の実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や外部と連携した活動を行う中で、計画から実施まで生徒の主体性がやや欠け、指導者主体となってしまった。 ・ 生徒アンケートでは「できている」「どちらか」とうてきてい

						る」合わせて８０％であった
特別支援教育	特別支援教育の理解	・特別支援教育に対する教職員の理解や実践的指導力の向上	・学期毎の校内研修の実施 ・校外研修会への参加	・ニーズに応じた校内研修の充実 ・校外研修会への積極的な参加呼びかけ	B	・校外研修の呼びかけは適宜できたが、具体的な内容の説明などを行い、参加者が増えるようにしていきたい。 ・校内研修については、進路面の研修を来年度実施していきたい。
	支援体制の確立	・支援が必要な生徒に関する教職員間の共通理解と個々に応じた柔軟な支援	・支援が必要な生徒に関する情報の整理 ・特別支援教育推進委員会を中心とした支援体制の確立 ・ケース会議の実施 ・巡回相談の活用	・全教職員による情報の共有 ・個別の教育支援計画・指導計画を活用した支援の方向性の確認 ・コーディネーターによるケース会議の企画・実施	B	・ケース会議については適宜実施できた。進路指導と連携した会議を今後充実させたい。 ・情報共有については不十分なところもあり、普段の職員室での会話や朝会の連絡などを利用して早めの対応をしていきたい。
環境教育	教育環境の整備及び省エネ意識の向上	・日常点検と整備の徹底 ・省エネに対する意識の高揚	・教職員、生徒、保護者の「掃除や整理整頓ができてい」の回答８０％以上 ・学校全体の電気使用量を前年度比０．５％削減	・校内美化活動の推進 ・落ち着いた学校環境の維持 ・定期的な整備、点検の実施 ・定期的に電気使用量を提示し、保健委員会を中心にクラスへの呼びかけを行う	B	・教職員、生徒、保護者への学校評価アンケートで「掃除や整理整頓ができてい」に対する回答は「当てはまる」、「よく当てはまる」の合算値は、全ての対象において８０％以上であった。 ・每学期実施する安全点検を元に、施設・設備の改修を計画的に実施することができた。 ・学校全体の電気使用量は前年度比１％増加となった。本年度は８～１０月の平均気温が高くなったことが増加の要因と考えられる。
保健管理	心身の健康の保持増進	・健康診断後の受診率の向上 ・ＳＣと連携した健康相談活動の充実	・歯科受診率６０％以上 ・眼科受診率７０％以上 ・ＳＣの定期的なカウンセリングの実施	・未受診者に対する定期的な個別指導の実施 ・月１回以上のＳＣによるカウンセリングの実施 ・保護者や教職員にＳＣ活用を促す	B	・歯科受診率は１月末時点で５０％眼科受診率は３３％であった ・月に１回以上のカウンセリングを実施。生徒３５件、保護者２件、教職員５件のＳＣ相談利用あり。情報共有も迅速に行った。